

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年2月2日(2006.2.2)

【公開番号】特開2004-208604(P2004-208604A)

【公開日】平成16年7月29日(2004.7.29)

【年通号数】公開・登録公報2004-029

【出願番号】特願2002-382154(P2002-382154)

【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/527 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

G 0 1 N 33/566 (2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/527

G 0 1 N 33/53 D

G 0 1 N 33/53 S

G 0 1 N 33/566

【手続補正書】

【提出日】平成17年12月13日(2005.12.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記の工程を含むことを特徴とする酵素活性測定方法。

(1) 検体にヒアルロン酸とインター - - トリプシンインヒビターとを共存させ、酵素反応条件下に置く工程；

(2) 酵素反応により単位時間内に検体中に形成された「血清由来ヒアルロナン結合性タンパク質」と「ヒアルロン酸」との結合体を定量する工程；

(3) 前記結合体の定量値を、検体中の「血清由来ヒアルロナン結合性タンパク質 - ヒアルロン酸結合体合成酵素」の活性とする工程。

【請求項2】 工程(1)において、更に二価金属陽イオンを共存させることを特徴とする請求項1記載の酵素活性測定方法。

【請求項3】 工程(2)における「結合体」の定量が、該結合体とヒアルロン酸親和性分子とを結合させる工程と、ヒアルロン酸親和性分子に結合した結合体を定量する工程を更に含むことを特徴とする請求項1又は2記載の酵素活性測定方法。

【請求項4】 「ヒアルロン酸親和性分子」が、固相に固着していることを特徴とする請求項3記載の酵素活性測定方法。

【請求項5】 ヒアルロン酸親和性分子が、ヒアルロン酸結合性プロテオグリカン、ヒアルロン酸結合性プロテオグリカンのコアタンパク質、ヒアルロン酸結合領域を含むポリペプチド、抗ヒアルロン酸抗体、ヒアルロン酸結合性タンパク質及びヒアルロン酸結合性の合成ペプチドからなる群から選択されるヒアルロン酸親和性分子であることを特徴とする請求項3又は4記載の酵素活性測定方法。

【請求項6】 結合体の定量が、前記結合体と「抗インター - - トリプシンインヒビター抗体」とを反応させて形成させた複合体を定量することによってなされることを特徴とする請求項1～5何れか一項記載の酵素活性測定方法。

【請求項7】 検体が細胞培養液、全血、血清、血漿、関節液、卵胞液、リンパ液、及び尿から選択される検体であることを特徴とする請求項1～6何れか一項記載の酵素活性測定方法。

定方法。